

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

題目(和文)	留学生と日本人学生の異文化コミュニケーションにおけるメディア使用の影響
Title(English)	The Influence of Media Usage on Intercultural Communication between International Students and Japanese Students
著者(和文)	叶少瑜
Author(English)	Shaoyu Ye
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第9910号, 授与年月日:2015年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:室田 真男,中川 正宣,武井 直紀,前川 眞一,中山 実
Citation(English)	Degree:., Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第9910号, Conferred date:2015/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

## 論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	叶 少瑜	
論文審査 審査員		氏名	職名	氏名	職名
	主査	室田 真男	教授	前川 眞一	教授
	審査員	中川 正宣	教授	審査員	中山 実
武井 直紀		教授			

### 論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は「留学生と日本人学生の異文化コミュニケーションにおけるメディア使用の影響」と題し、全5章で構成されている。

第1章「序論」では、本論文の背景となる異文化コミュニケーションの理論を示し、日本における留学生のケータイ（スマートフォン以外の携帯電話端末）、スマートフォン、PCによる通話、メール、インターネットの使用が異文化コミュニケーションに与える影響を明らかにする意義を述べている。そして本論文の目的は、次の3点を明らかにすることであるとしている。(1) ケータイを利用した日本語による異文化コミュニケーションでは、通話とメールの違いにより日本人学生の印象形成に与える影響がどの様に異なるのか、(2) 留学生の日本語能力によりケータイの使用状況がどの様に異なるのか、それに伴い留学生のコミュニケーションメディア観やメディア利用に対する認識がどの様に異なるのか、(3) 留学生のケータイおよびPC使用が、日本における異文化適応状況の向上にどの様に寄与しているのか。

第2章「中国人留学生と日本人学生の異文化コミュニケーションにおけるケータイ使用の影響」では、中・上級日本語能力（日本語能力試験1級・2級の合格者相当）を有する中国人留学生が日本人学生の質問に対しケータイを利用し通話あるいはメールにより日本語で回答するという実験を行い、通話とメールの違いによる日本人学生の中国人留学生に対する印象形成の差異を検討している。中国人留学生と日本人学生のペア35組を分析した結果、日本人学生は、中国人留学生からの通話によるメッセージに比べて、メールによるメッセージの方がより特徴的な印象を持ちやすかったことが示されている。メッセージ内容や量の分析結果より、ケータイのメールメッセージの日本語の文法的誤用の多さが特徴的な印象形成の要因になっていることが明らかにされている。

第3章「留学生のコミュニケーションメディア観と使用状況、個人的要因との関係」では、留学生397名を対象に調査・分析した結果より、中・上級日本語能力を有する留学生のメール利用は、PCよりケータイを多用していることが明らかにされている。そして、第2章の結果と併せ、中・上級日本語能力を有していてもケータイ・メールによる日本語使用には、より多くの指導が必要であることを示唆している。次に、コミュニケーションメディア観に関しては、中・上級日本語能力の留学生はケータイによる通話とメール両方に対し「情報伝達」と「友情増進」の効果を高く評価している、一方、日本語能力が低い留学生は概してPCメールの効果を高く評価していることが示されている。その結果は、ケータイの入力インタフェースの難しさが影響していると考察している。更に、スマートフォンを含めたメディア利用に対する認識について56名のアンケートを分析している。その結果、ケータイ利用者に対してスマートフォン利用者は「情報検索」に対する認識が高いこと、そして、インターネットは、スマートフォンは「情報検索」に、PCは「情報閲覧」に主に利用されていることが明らかにされている。

第4章「留学生のコミュニケーションメディア使用が異文化適応状況に及ぼす影響」では、第3章の397名への調査結果をもとに留学生のコミュニケーションメディア使用と異文化適応状況の関係を共分散構造分析により明らかにしている。ここでの異文化適応状況とは、日本における生活の「適応感」と「満足度」、一般的な日本人学生に対する「好意度」を扱っている。その結果、(1) コミュニケーションメディア使用が全体として異文化適応状況に正の影響を及ぼしている、(2) コミュニケーションメディア使用は、PCよりもケータイ、そしてケータイではメールの送信頻度に大きな影響が見られる、(3) 異文化適応状況は、居心地の良さと同様に「満足度」および「好意度」と大きな関係があり「適応感」とはほとんど関係がない、ことを明らかにしている。ここで、「適応感」が向上していないことは、ケータイ使用により異文化コミュニケーションは促進されていないことを意味しており、留学生のケータイ使用が日本人学生との交流に影響を及ぼし、同言語話者と異言語話者との「分層化」の要因になることが考えられるとしている。

第5章「結論」では、留学生と日本人学生の異文化コミュニケーションにおけるメディア使用の影響をまとめ、以下のように提言している。(1) 中・上級日本語能力を有する留学生にとってもケータイによるメールは日本語の文法的誤用が起りやすく、指導が必要である、(2) ケータイ使用は留学生の日本社会における真の適応には促進効果がないことから、それに留意しながら、対面などによるコミュニケーションが必要である。

以上を要するに、本論文は留学生と日本人学生の異文化コミュニケーションへのメディア使用の影響を実験および調査により新たな知見として示したものであり、社会情報学やメディア情報学をはじめとする学術上の研究に貢献するところが大きい。よって本論文は博士(学術)の学位論文として十分価値があるものと認められる。

注意: 「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。